

長岡京市生活環境審議会の評価・意見及び市の考え方

長岡京市では、本計画を策定及び進捗管理を行う際に意見を求めるため、「長岡京市生活環境審議会」を設置しています。この審議会には、市民や事業者、諸団体と学識者等の委員が参加し、PDCAサイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）を運用しています。本計画の取り組み主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。

これにより、行政以外の視点でチェックをし、取り組みを改善していくことができます。この章では、審議会委員からの評価と意見をまとめるとともに、それに対する市の考え方について報告します。（※重複する意見や単純な質問・回答、個別事案についての意見は省略しています。）

■全体として

委員意見
◇毎回の繰り返しになるが、これだけきちんとした進捗管理をされていることに、心から敬意を表したい。
市の考え方
◇引き続き取り組みの見える化に努め、市民との情報共有を図りたい。

■5 ページ「太陽光発電設備の最大限の導入」について

委員意見
◇今回建替えられた学校の規模で 19.2kW は小さい。陸屋根部分には目いっぱい付けられているのは理解するが、傾斜屋根にも設置するなど、最大限の太陽光発電を入れるにはどうするかという発想で、そもそも設計があってもよいのではないかと。それぐらいしないと脱炭素の地域づくりには間に合わない。もし、余剰が出ないようにと出力を抑えたのであればもったいない。脱炭素を目指す上で、特に学校は重要。ZEB に近い形にしていくためには、太陽光発電に適した屋根形状を含めての設計をお願いしたい。
市の考え方
◇太陽光発電設備の最大限の導入を前提とした設計に関するご意見について、庁内で情報共有したい。長岡第四小学校校舎屋上は、環境面も含め、児童の利用、経済性、景観条例にも配慮した設計となっている。なお、今回の 19.2kW で発電する電力は、ほぼ使い切る見込みであることから、余剰電力の売電は計画していない。

■6 ページ「非 FIT の拡大と活用」について

委員意見
◇今後、非 FIT の拡大が求められる中で、余剰電力の引取先がなかなか見つからず、余剰電力の発生を制御するのかどうかといったことが課題視されている。0 円での引取先もあるようだが、それよりも、京都府との連携も想定しつつ、地域の余剰電力を地域の学校に届けるなどの仕組みができるとよいのではないかと。

市の考え方
◇電力会社をされている委員の知見もお借りし、様々な手法にアンテナを張り、調査研究する。

■9 ページ「はっぴいバスに関する成果指標」について

委員意見
◇1 便あたりの利用者数が未達ということだが、未達の原因は、便数が増えたからである。便数が増え、地域の方々への利便性が上がっているにもかかわらず、それで評価が悪くなるという仕組みは改善すべきと考える。
市の考え方
◇はっぴいバスの成果指標について、2025（令和 7）年度から 2027（令和 9）年度の新実施計画では指標設定の仕方自体を見なおすこととする。2023（令和 5）年度の評価については、評価記号の横に注記を付すなど、誤解の生じないよう工夫をする。

■10 ページ「電気自動車の充電器の利用促進」について

委員意見
◇無料で充電できるということで利用が急増しているとのことだが、今後有料化などの対応予定はあるか。ガソリン車からの転換ということが大事だと思うので、単に有料化というよりは、何か普及に繋がる使い方ができればと思う。
市の考え方
◇市営駐車場の中にある充電器という関係上、本来の円滑な駐車場利用の妨げになることがあってはいけいないので、利用制限や有料化も選択肢の一つとして運用の見直しを検討中である。一方、電気自動車の普及については、当該駐車場の運用方法には直接関係ないが、補助金等により促進している。

■11 ページ「自転車走行区間の整備」について

委員意見
◇将来的にはマイカーからの転換ということで、自転車も地域の交通体系の一つとして位置付けられたらよいと思う。
市の考え方
◇今、長岡京市では「自転車活用推進計画」に基づき、例えば自転車が走りやすいよう誘導する「矢ばね」を道路に示したりということを計画的に進めている。安全面のことも含めて、自転車活用を推進する計画に基づいた進捗管理をしていく予定である。

■19 ページ「保育所・小中学校給食調理くずの再資源化」について

委員意見
◇保育所・小中学校の給食調理くずについて、循環の行き先や用途を、園児・児童・生徒に伝えることは大事なことだと思う。

市の考え方
◇出前授業をし、子ども達にリサイクルの説明をする中で触れている。市としても大事なことで認識している。

■29・30 ページ「みどりを増やし、それをどう維持していくか」について

委員意見
◇みどりの面積を増やす取り組みはよく分かる。これをどう維持管理するのかについて、みどりのサポーターの高齢化などの課題がある中、今度どうしていくのか市の考え方を教えてほしい。
市の考え方
◇サポーターの高齢化等に伴い、解散する団体が増えてくることから、若い世代も参加する緑の協会等のイベントで情報発信するとともに、公共施設等での周知を拡大し、加入を促し、市民協働での維持管理を推進していく。

■38 ページ「西山公園（第3期）の整備」について

委員意見
◇西山の麓にふさわしい環境と調和した公園ということで、公園だけの閉じた利用ではなく、西山につながるような、市民の方が西山全体を利用できるような工夫をできる範囲でお願いしたい。
市の考え方
◇西山の麓に調和した公園ということで、西山に生える樹種など考慮されている。いただいたご意見は所管課とも情報共有する。

■40 ページ「リユースの一例として物々交換」について

委員意見
◇以前、所属団体が主催するイベントの中で物々交換会を行ったことがある。さらにそこで出てきた物を使った手作りの教室も行った。お金をかけないこのような取り組みも一例として、市の方で参考にされたい。
市の考え方
◇市民の中でそのような取り組みがあることが大変素晴らしい。シェアの手法の一つとしてアイデアは廃棄物担当課とも共有する。

■40 ページ「リユース品販売の一工夫」について

委員意見
◇市と連携し、リユースショップ実行委員会では、売るだけでなく、売ることによってどれだけのごみが減らせ、CO ₂ が減らせるかもお知らせする取り組みをしている。様々な手法があると思うが、環境によいことをみんなでやっていければと思う。
市の考え方
◇今後も様々な主体が、連携もしながらシェアを推進していくべきと考える。

■「取り組みの見える化と工夫」について

委員意見
◇多くが目標達成となっており、全体的に努力されている。市民の頑張りの結果でもあるので、そのことを今後も見える化していてもらいたい。そのための工夫として、資料の中で経年の変化に言及するものはグラフにするのもよいのではないか。
市の考え方
◇現状、市ホームページ及び小規模な催しの中等でお知らせしている。ZEB Ready 建築物の達成など大きな取り組みは様々な場面でPRを行っている。グラフの提案については、経年の変化・傾向に言及するものはグラフ化も検討する。

■「目標に対する現状の位置付けについて市民に分かりやすく示すこと」について

委員意見
◇2030 年や 2050 年の目標に対して、長岡京市がどういう状況にあるのか、目標が果たせそうなのか、もっと加速しないといけないのか、その感触みたいなものが分かる示し方ができれば、市民にとっても取り組みやすいのではないか。
市の考え方
◇最も理想的なのは、市域の温室効果ガス排出量であるが、現状都道府県の統計数値の按分であるため、長岡京市固有の努力が反映されない。何かよいアイデアがあればありがたいと思う。既に示しているものとしては、市域の温室効果ガス排出量のほかに三つの成果指標がある。これらは 2030 年の目標設定があるので、グラフ化するなどより分かりやすくなるよう工夫する。

■「課題への今後の対応の記述」について

委員意見
◇課題の認識で終わっている記述がいくつか見られる。重要なのはそれにどう対応していく方向性であるのかということだと思う。
市の考え方
◇改めて記述を見直し、事業課に方向性を確認した上で記述を改める。

次期 2025（令和 7）年度～2027（令和 9）年度実施計画の策定にあたって

■次期計画 1 ページ「家庭、事業者等への再生可能エネルギーの導入」について

委員意見
◇「初期投資ゼロモデルなど、多様な導入支援策を、関連する主体と連携し検討します。」とあるように、重要な点だと思うので、地域の事業者が集まるような場で、〇 円ソーラーなどを積極的に PR していただきたい。
市の考え方
◇個人だけでなく、事業者に対しても啓発を行っていく。

■次期計画 1 ページ「公共空間における再生可能エネルギーの導入」について

委員意見
◇既存公共施設への太陽光パネル設置について、少なくとも今後長く使うような、長寿命化するようなところは、パネル設置検討の進捗管理ができればと思う。既に設置されているところでも、大きな屋根であれば増設すること含めて検討いただきたい。
市の考え方
◇長岡京市の公共施設は、築 35 年を超えているような建物がほとんどである。日照の状況など含め、明らかに除外できる施設を除き、可能性のある施設については、個別に前向きに検討を行っていく。

■次期計画 3 ページ「エコ建築の普及」について

委員意見
◇民間戸建住宅のエコ建築の普及が重要。ペアガラスや二重窓の普及割合を把握・指標化して施策を進めていくのも一案ではないか。また、学校の断熱化を進めることも重要。新築の ZEB 化は素晴らしい。既存の学校については、ZEB までこだわらなければ、最上階屋根の断熱化や、窓の二重化などは、簡便にできる可能性がある。そこに住民参加があればなおよい。検討いただきたい。
市の考え方
◇ペアガラスや二重窓の普及割合の把握の手法について調査・研究する。既存の学校の断熱化については、提案いただいた手法について所管課と情報共有を図る。

■次期計画 8・9 ページ「環境負荷を下げているのかどうか適正に評価する指標」について

委員意見
◇2023（令和 5）年度 1 人 1 日あたりの収集ごみ量が、既に相当低くなっているが、今後の目標値がそれより多くてもよいように見える。他の計画との整合というのはあるかもしれないが、指標が変えられないとしても、誤解を招かないなど何か対応ができないか。他にも 9 ページの再生利用量の目標と実績のところで、そもそもごみの発生自体が減っていれば、再生利用量が減り、目標未達となる可能性がある。これについても、環境負荷を下げているのかどうか適正

に評価できるようにならないものか。
市の考え方
◇他にも同様の箇所があるが、他の個別計画との整合を図っているものである。目標水準の適正化については、当該個別計画の見直し時に、必要に応じ適宜行う。次期の 2025（令和 7）年度から 2027（令和 9）年度計画においては、市民の方が見たときに誤解が生じないことは重要と考えるので、必要な注記を付すこととする。

■次期計画 10 ページ「給食調理くずの再資源化」について

委員意見
◇公立保育所・小中学校での給食調理くずの再資源化について、2027（令和 9）年度まで継続するだけでも努力が必要なことだと理解している。その上で、取り組みの前進として、民間保育園等に拡大していく余地はないものか。
市の考え方
◇検討課題として認識している一方、リサイクルにはそれなりの経費がかかる。啓発という手法もあるので、改めて所管課と情報共有する。

■次期計画 11 ページ「粗大ごみ排出量の削減」について

委員意見
◇粗大ごみについて、まずはリユースを推進するのはもちろんであるが、それでも使い道がないものについては、計画的に排出しておくことも重要である。災害時にはそれらが一度に排出され問題となるためである。よって、ごみとして出すことが絶対にいけないことのように極端に受け取られないよう、上手に啓発していただきたい。
市の考え方
◇使える物はリユースすることが大事という点については同様の認識である。災害ごみといった問題もあるため、ごみとして排出することが絶対にいけないことのように取られないようにという点については、廃棄物の所管課とも情報共有する。